

輸出事業計画**※申請者名 ジャパンベジタブル株式会社****品目：かんしょ****1. 輸出における現状と課題****【現状】**

- かんしょは過去10年間で5.9億円から36.0億円と輸出額を伸ばしており、輸出においては成長が著しい品目の1つである。
- 静岡県はかつて干し芋発祥の地として長年加工用向けのかんしょを作る歴史があったものの、農家の高齢化により耕作放棄地の増加が顕著となっており加工用向けかんしょの作付面積は毎年減少している状況にある。かんしょの生産をできる素地があることは明らかであるため、静岡県にて生産を行った青果用かんしょの輸出拡大に取り組んでいる。
- 2022年度の東南アジア各国への輸出実績は輸出量27トン、輸出額が860千円だったのに対し、2023年度は輸出量368トン、輸出額が131,900千円まで拡大しており、輸出先として需要のポテンシャルは高い。（(株)日本農業全体としての輸出実績）

【課題】

- **生産・製造**
基腐れ病の蔓延、生産量の減少により仕入れ価格が高騰している。
- **物流**
輸送耐性が低く、特に冬場は腐敗が進みやすい傾向があり、品質向上が必要である。
- **貯蔵施設の確保**
通年供給できるように必要な数量のかんしょを貯蔵するための設備が不足している。
- **販売**
海外の消費者、スーパーのバイヤーは日本産かんしょの品質に対する期待値が高く、多少のキズであったとしても小売店舗の品質検査を通過しない場合がある。

輸出事業計画

※申請者名 ジャパンベジタブル株式会社

品目：かんしょ

2. 輸出事業計画の取組内容

- 耕作放棄地を活用した生産拡大

基腐れ病の蔓延、高齢化による生産量減少対策として耕作放棄地のかんしょ畑への転換面積拡大に取り組む。

- 輸送耐性強化、腐敗対策への取り組み

プラスチックコンテナによる流通体制を構築し、収穫後の荷扱いを改善し、輸送耐性の強化に取り組む。

- 貯蔵設備拡大

倉庫保有業者との提携により必要な貯蔵施設の手配を図る。

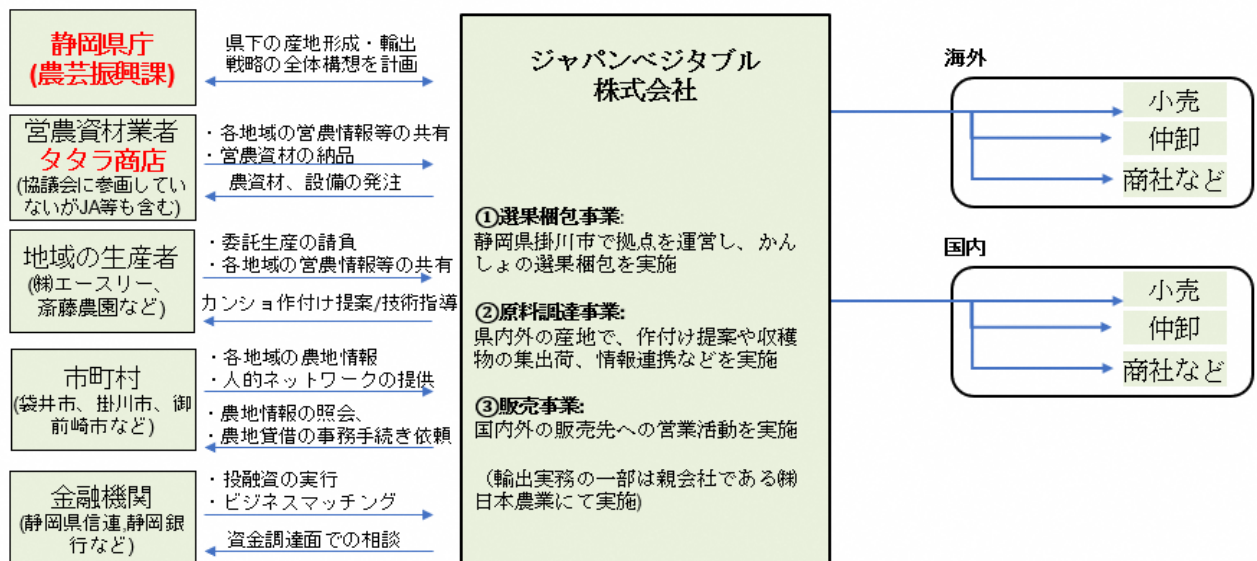
- 品質管理基準の策定、B品、C品の輸出可能性検討

輸入業者、海外バイヤーを招聘し、収穫、貯蔵、選果のオペレーション理解を深め、品質基準を新たに策定し輸出可能な品質の拡大を図る。また、正品として販売が難しいB品、C品の取り扱い可能性についても交渉を進める。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

<実施体制>

※赤字は静岡県かんしょ輸出促進協議会の参画者



- ・静岡県庁と産地形成や清水港などを活用した輸出戦略の全体構想を策定。当事業推進に必要な関係各所との調整
- ・㈱エースリーを含む地域の生産者がかんしょの作付けを実施。(耕作放棄地からの再生圃場や他品目からの転作による作付けを含む)
- ・各市町村と農地の賃借や地元との折衝において連携
- ・金融機関と事業運営にかかる資金調達において協業
- ・JA、民間業者の営農面での連携を検討/実施
- ・鈴与と清水港を活用した輸出に関する実務面で協業

- ・静岡県下で生産したかんしょは、ジャパンベジタブルが中心となって選果梱包を実施し、㈱日本農業が海外輸出実務を実施。
- ・清水港から輸出するカンショは、主に㈱鈴与と連携
- ・現地実需家と直接取引が難しい場合には、各国の輸入業者や流通事業者を経由して納品

輸出事業計画
※申請者名 ジャパンベジタブル株式会社
品目：かんしょ

4. 輸出目標数量

品 目		現状 (令和 4 年度)	目標年 (令和 9 年度)
かんしょ	輸出量 (t)	0	2,068
	輸出国先	なし	タイ、シンガポール、カナダ、台湾、マレーシア、EU (ドイツ、オランダ)